

第1章 札幌市の観光への取り組み

1 平成22年度観光コンベンション部の事業概要

各事業の詳細については、【 】内に記載している各担当係までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課

電話 011-211-2376

○観光客の受け入れ環境整備事業

(1) 観光案内所の運営管理【観光誘致・受入担当】

来札客に各種観光情報等を提供するため、市内に観光案内所を設置しています。常設の案内所のほか、観光シーズンやイベントに合わせて設置する案内所があります。

また、外国人来札客に対しての観光情報提供場所として、国際観光振興機構（日本政府観光局：JNTO）の指定による「ビジット・ジャパン案内所（V案内所）」があります。

〔観光コンベンション部案内所一覧〕

名称	概要
北海道さっぽろ観光案内所 (V案内所)	所在地：中央区北6西4 JR札幌駅1階西側コンコース 定休日：年中無休 営業時間：8:30～20:00 電話番号：011-213-5088
カッコウの窓口 (V案内所)	所在地：中央区北1西2 市役所2階 定休日：土日祝、年末年始 営業時間：8:45～17:15 電話番号：011-251-2141
大通公園観光案内所	所在地：中央区大通西3丁目 開設期間：春～秋季のみ 平成22年度は4/28～10/31まで開設 定休日：開設期間中は無休 営業時間：9:30～17:30（4～6月、9・10月） 9:00～18:00（7・8月） 電話番号：なし
定山溪観光案内所	所在地：南区定山溪温泉東3丁目 定休日：年末年始 営業時間：9:00～17:00 電話番号：011-598-2012
札幌国際プラザ (V案内所)	所在地：中央区北1西3 札幌MNビル3階 定休日：日祝、年末年始 営業時間：9:00～17:30 電話番号：011-211-3678
雪まつり観光案内所	所在地：中央区大通西6・9丁目 開設期間：雪まつり会期中のみ 平成23年は2/7～13まで開設予定 定休日：雪まつり会期中無休 営業時間：9:00～22:00 電話番号：なし

(2) 観光マップ制作【観光誘致・受入担当】

来札客の円滑な周遊をサポートするためのツールとして、中心部及び広域マップに主な観光施設を掲載した「さっぽろ観光マップ」を発行しています。日本語のほか、英語、中国語（簡体字・繁体字）及びハングルの5言語を制作し、市内各案内所等で配布しています。

(3) 観光案内板の管理【庶務係】

来札客の利便性を図るために、195基の観光案内板を設置しています。表示言語は、日本語・英語・中国語（簡体字）・ハングルの4言語に加え、中国語（繁体字）の追記を順次行っており、外国人の来客にも対応しています。また、ユニバーサルデザインやピクトグラム（絵文字表記）を採用して利便性に配慮しています。

(4) 都心部観光バス待機場の設置【観光誘致・受入担当】

観光バスで訪れた観光客が街なかを見学している間、バスが路上駐車をしなくても済むように、札幌市と北海道バス協会が共同で観光バス専用の待機場を設置し、北海道バス協会が管理運営をしています。

観光バス待機場所在地：中央区北1条西9丁目〔平成21年度利用台数12,724台〕

(5) 札幌まちなめぐりパス事業への参画【観光誘致・受入担当】

公共交通の利用促進と、札幌を訪れる観光客の利便性、観光施設と連携した札幌の魅力アップを目的として行っている「札幌まちなめぐりパス」の事業（平成18年度～平成20年度は実証実験）に参加しています。

日本語版パンフレットについては、平成20年度より、フリーペーパー要素を加味することで制作費・印刷費を広告収入で賄うこととし、事業の枠組みを確立しました。

一方、台湾・香港など外国の観光客の関心も高いことから、観光圏整備事業費補助金を活用して外国人観光客の滞在、周遊促進にむけた取り組みを行っています。

○ホスピタリティ推進事業【観光誘致・受入担当】

(1) 観光ボランティアの運営

市民による観光ボランティアが、大通公園観光案内所や北海道さっぽろ観光案内所、雪まつり会場の案内所で、パンフレットの配布や観光スポットの紹介、写真撮影などの観光案内を行っています。地元住民ならではの意見が聞けるということで、観光客から好評を得ています。

登録数は179名（男64名・女115名）、平均年齢は62.3歳であり、活動は交代制となっています（平成22年7月現在）。

(2) 札幌魅力再発見研修

観光客への案内スキルの向上やおもてなし意識の醸成を図り、札幌観光の満足度向上を目的に、札幌市内のホテルのフロントやコンシェルジュ、観光事業者などを対象として、市内及びさっぽろ広域観光圏域内の観光スポットの視察研修・体験研修を実施しています。

(3) 市民と協働による観光リーフレット制作

地元市民が好んで行く札幌のおすすめスポット情報を札幌観光に役立ててもらうことを目的に、テーマごとに市民おすすめ観光モデルコースの作成を行っています。市民と協働で事業を実施することで、観光ガイドブックの定番情報とは異なる地元市民ならではの情報を提供しています。リーフレットの制作のほか、観光情報サイト「ようこそさっぽろ」にも掲載しています。

ようこそさっぽろ(観光モデルコース)

<http://www.welcome.city.sapporo.jp/sansaku/>

(4) 札幌おもてなし委員会（４ トピックス（p12）参照）

まち全体のおもてなし向上を目指すため、観光関連団体（経済団体、観光関連事業者、都心部商店街、市民ボランティア、行政など）と連携・協力して立ち上げた、官民合同の組織である「札幌おもてなし委員会」の事務局をしています。おもてなしのための人材育成、大規模コンベンション等での統一感のあるおもてなし、観光関連事業者の情報共有・ネットワーク化を行い、おもてなしレベルアップを図っていきます。

○観光情報の発信【観光誘致・受入担当】

(1) ホームページの運営管理

ア) 観光情報サイト「ようこそさっぽろ」の運営管理

札幌市の観光情報サイトとして「ようこそさっぽろ」を公開しています。

このサイトは、市民・企業・大学（研究機関）・行政が集まった委員会で運営方針を決定、それに基づいて毎月、運営編集を行っています。内容としては、交通機関や観光施設等の基本情報のほか、イベントなど季節限定の情報を紹介。また、年1回の公募・審査により選定された「その道の達人」が書く記事を毎週更新するなど、定番から旬なものまでバラエティに富んだ観光情報を提供しています。日本語のほか、英語・中国語（繁体字・簡体字）・ハングル版があります。

ようこそさっぽろ <http://www.welcome.city.sapporo.jp>

イ) リアルタイム情報発信システム運営

市内で行われる様々な観光・文化事業の情報を集約し、季節情報（桜開花情報、紅葉情報など）や観光施設の運休情報（ロープウェイ、観光幌馬車など）などのリアルタイム情報とあわせて、市民へわかりやすく提供する「観光文化情報ステーション」を運営しています（観光文化局文化部に予算を委託し運営）。

なお、観光文化情報ステーションは以下のホームページでも情報発信を行っています。

観光文化情報ステーション

所在地：地下鉄南北線「大通駅」地下コンコース北改札口横

定休日：年末年始（12/29～1/3）

営業時間：10：00～20：00

【URL】 <http://www.sapporo-info.com/index.php>

【携帯電話用URL】 <http://www.sapporo-info.com/m/>

QRコード⇒



(2) 観光情報共有メーリングリストの管理運営

季節情報（桜開花情報、紅葉情報など）や観光施設運休情報（ロープウェイ、観光幌馬車など）、各種イベント情報、ホテルの混雑状況等の観光関連情報を、観光案内所や市内ホテル関係者等で共有するためのメーリングリスト「観光情報ネット」を運営しています。

(3) 写真ライブラリー

企業等が札幌の観光ガイドブックやパンフレット制作を行う際に必要となる市内の観光スポット等の写真を保有しており、ホームページで無料ダウンロードサービスを行っています。〔平成22年4月現在 約1,800枚保有〕

札幌の観光行政（観光写真ライブラリー）

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/index.html>

○修学旅行誘致に関する企画【観光振興担当】

首都圏などから中学・高校生の教育旅行を誘致するために、道央圏の関係団体（行政・観光協会等）で組織する「道央圏教育旅行推進会議」に参加し、教育旅行誘致パンフレットの制作を行っています。

○藻岩山魅力アップ構想推進事業【観光資源担当】

札幌を一望できる藻岩山は都心からのアクセスも良く、その眺望の美しさで多くの観光客や市民に親しまれており、また、大都市に隣接しながらも豊かな自然に恵まれていることから環境文化都市のシンボルとして位置づけられています。

これまで、「第4次札幌市長期総合計画」における位置づけを踏まえ、有識者、公募市民などから構成される懇談会、シンポジウム、フォーラム等を通じ、藻岩山の今後のあり方、ランドデザインや魅力アップの方向性などについて検討を行いました。それらを基に平成19年度に策定した「藻岩山魅力アップ構想」は、今後の藻岩山のあるべき姿・方向性ととも、藻岩山で想定される施設の改修や求められる機能、さらにはこの機能を担う施設のガイドラインを示しています。

ロープウェイ、展望台などといった藻岩山における各施設は、建設から40年近くが経過し老朽化が顕著となっているため、「藻岩山魅力アップ構想」に基づき施設再整備を進めています。藻岩山は190万都市札幌に隣接する地域である一方、天然記念物にも指定されているほどの豊かな自然を有しており、この恵まれた資源を市民や観光客、子どもから高齢者に至るまで誰もが感じられるよう再整備を行うもので、環境の保全とバリアフリーを二つの大きなテーマとしています。

ロープウェイの改修工事は平成22年4月から開始しており、これに伴いロープウェイ、観光道路は閉鎖していますが、登山道は引き続き利用することが可能です。

今後、平成22年11月に各施設の解体を始め、雪解け後の平成23年4月からは山頂、中腹でも本格的な建設工事を開始し、平成23年秋頃リニューアルオープンする予定です。

また、ハード面だけではなく、「藻岩山の日」や「さっぽろに緑を広めよう」などといった各種イベントを実施し、ソフト事業のさらなる充実を図っていきます。

○国内外へ向けた観光プロモーション事業

(1) 国内プロモーション事業【観光振興担当】

札幌市を訪れる観光客の約44%は道外からの来客です。道外観光客は消費行動などの経済効果も大きく、地域の活性化に果たす役割は大きいといえます。

本市では、道外観光客の誘致に向けた取り組みに重点をおき、特に約3,000万人の人口を抱え、札幌への来客割合が多い首都圏を中心に、PR事業を展開していきます。

ア) ターゲット別国内観光プロモーション事業

首都圏において旅行会社及びマスメディア等を対象とした事業「ROUND-TABLE about SAPPORO TOURISM」を開催しています。

この事業では、札幌観光の魅力強く発信する説明会と商談会を行い、札幌観光のPRと新たな旅行商品の造成につなげていきます。

イ) 観光メールマガジンの配信

札幌観光の旬の魅力を広く発信するため、主に首都圏の旅行会社の方々を対象に観光メールマガジンを配信しています。このメールマガジンでは、魅力が読者により伝わるよう観光コンベンション部職員が実際に体験取材を行い記事にしています。

メールマガジンの配信は、下記のホームページから申し込むことができます。

札幌の観光行政(メールマガジン配信申込・バックナンバー紹介)

http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/mail_magazine/mail_magazine.html

(2) 国際プロモーション事業【観光誘致・受入担当】(4 トピックス (p13) 参照)

近年、海外からわが国への来客数は増加を続けていましたが、平成21年は、前年の世界金融危機の影響を受け、減少に転じました。現在、政府では「ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)」を展開し、海外からの来客を倍増させる取り組みを進めており、今後、経済の回復に併せて急速に増加していく見込みです。

札幌市を訪れる外国人は、これまで台湾や香港、韓国が上位3カ国を占めていましたが、経済成長にあわせ中国が大幅に増えており、21年度は韓国を抜いて第3位になりました。22年7月の個人ビザ発給要件緩和にあわせ、今後、いっそう増加することが見込まれています。また、22年度から、VJC 地方連携事業対象市場に、ロシア・インド・マレーシアが新たに加わり、新たな市場として今後の入込みが期待されており、札幌市では、こうした海外からの観光客をさらに誘致するために、各種のPR事業を展開していきます。

ア) 現地プロモーション事業

現地の旅行会社等を対象に、観光セミナーや商談会を行うことで、より魅力的な旅行商品の造成を促します。また現地のイベントや物産展とタイアップし、一般市民に向けて直接PRを行うことで、旅行意欲を喚起します。

22年度実施地：上海、北京、ソウル、台北、香港、シンガポール
ハバロフスク、ユジノサハリンスク

イ) 国際旅行博覧会出展事業

旅行に関心の高い一般市民が集まる場で、直接PRや情報提供を行うことで集客につなげ、同時に来場者や出展旅行会社から、聞き取りによる市場調査を行います。

22年度出展先：MATTA Fair (マレーシア)、OTM (インド)

ウ) 情報発信事業

旅行や観光PRをテーマとしたテレビ番組の制作支援や、メディア招請、インターネットを活用した情報発信を行い、旅行意欲を喚起します。

22年度発信先：中国、香港、タイ、シンガポール、マレーシア

○コンベンション誘致・支援事業【観光誘致・受入担当】

近年、コンベンションのみならずイベントや企業の報奨旅行などを包括した MICE (マイス=Meeting、Incentive travel、Convention、Event/Exhibition) という概念が誕生し、国は平成22年(2010年)を「Japan MICE Year」と銘打って、MICE 推進に取り組んでいます。そういった中、都市間競争に打ち勝つために、本年、(財)札幌国際プラザ コンベンションビューロー*とともに、「札幌 MICE 総合戦略」を策定し、産業界や大学、市民との連携や海外とのネットワークを重要な要素として、MICE によるさらなる集客を目指していきます。

(1) コンベンション誘致事業

会議の運営費用に係る助成金制度の整備や運用、国際コンベンション見本市への出展等、コンベンション誘致事業を行うほか、割引地下鉄1日乗車券「Aカード」の制作等の会議開催支援を行い、会議参加者のアフターコンベンション(会議後の観光等)を促進しています。

(2) 関係団体との連絡調整

札幌市におけるコンベンション誘致の中心組織である(財)札幌国際プラザコンベン

ションビューローに対して補助金を交付するとともに、会議開催の鍵となるキーパーソンの札幌招へい、国際コンベンション見本市への出展など、誘致事業についても連携しながら、実施しています。

また、大規模・国際的なコンベンション（例：国際顕微鏡学学会、その他政府系国際会議など）の誘致については、関係者（道、経済団体、企業等）との意見交換や調整を図るなど、戦略的な誘致に向けた取り組みを行っています。

（財）札幌国際プラザコンベンションビューロー：コンベンションを誘致するため、誘致段階（誘致プレゼンテーション資料の提供、招聘状の送付など）、開催段階（コンベンション運営の手伝い、ボランティアの派遣）等の事業を主な活動とする非営利の推進機関です。

○PRツールの制作、配布・貸出【観光振興担当】

札幌の観光の魅力を視覚的にアピールしていくために、広報宣伝物を制作し、配布または貸出を行っています。

（1）ビデオ・DVD

本市では、プロモーションビデオ（DVD）を制作しており、プロモーションの機会などに配布しているほか、国内外観光拠点（国際観光振興機構海外事務所、札幌市東京事務所、北海道観光振興機構）に常備し、誘致用に活用するとともに、観光情報提供窓口である「カッコウの窓口」において、貸出を行っています。

タイトル	言語	メディア	制作年度
歓迎交響曲	日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語	DVD、ビデオ	初版：平成13年度 第五版：平成20年度

また、現在、新たなプロモーションDVDの制作を進めています。制作にあたり撮影する映像素材は、DVDのほか各種プロモーション活動に使用していきます。

（2）観光PRリーフレット・ポスター

本市では、さまざまな機会をとらえた幅広いプロモーション活動を行うため、観光PRリーフレットとポスターを制作しています。制作したリーフレットやポスターは、全国各地で行われる物産展や各種イベント等で配布、掲出していきます。

○集客交流事業者に対する助成制度の実施【観光振興担当】

（1）観光プロモーション助成事業

札幌観光の最大のマーケットである首都圏及び関西圏において、札幌の観光の魅力をPRする事業に対し、その費用の一部を助成し、札幌観光の活性化を図ります。

〔平成22年度予算額：200万円〕※1件あたりの助成金額は、助成対象経費の2分の1以内で、50万円を上限としています。

（2）芸術・文化・食等を活用した街の魅力創造支援事業

芸術・文化・食等の観光魅力を活用し、観光客の札幌市での滞在をより充実させることを目的とする事業に対して、費用の一部を助成し、街の魅力づくりを支援します。

〔平成22年度予算額：200万円〕※1件あたりの助成金額は、助成対象経費の2分の1以内で、50万円を上限としています。

○来札観光客の動向調査・分析、結果についての情報提供【計画担当】

（1）来札観光客数、訪日外国人宿泊客数の調査

札幌市への来札観光客の入り込み数や宿泊施設の利用状況などの調査を行い、本書「札幌の観光」やインターネットで公開しています。

札幌の観光行政(観光統計データ)

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/statistics/statistics.html>

(2) 来札観光客動態調査

来札観光客の動態を明らかにし、今後の観光行政に活用することを目的に、以下の調査を実施します。

なお、過去の調査結果はホームページで公開しています。

札幌の観行行政(計画・調査レポート)

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/program/program.html>

ア) 来札観光客満足度調査

主要ターゲットである首都圏・関西圏からの観光客を対象に、来札観光の満足度、観光消費額、宿泊日数、再訪意向などのアンケート調査を実施します。

[平成20年度 来札観光客の札幌観光に対する総合満足度：85.5%]

イ) 外国人観光客動態調査

香港、台湾、韓国等、来札観光客が多い東南アジアを中心に、道内及び市内でどのような観光行動をとっているか、外国人観光客を対象としたアンケート調査を実施します。

[平成20年度 外国人観光客の札幌観光に対する総合満足度：93.3%]

○定山溪観光客誘致関連【観光振興担当】

平成16年度に策定された「定山溪温泉活性化ビジョンアクションプログラム」に関連して実施される各種ウォーキング、散策、定山溪エリアの食や文化等を発信する事業など、定山溪温泉地域の魅力向上、来客誘致を促進する事業に対し支援を行っています。

また、定山溪関係団体等が一堂に会し、地域資源の掘り起こしや活用を考えるワークショップを開催するとともに、北海道内在住者を対象に定山溪に対する意識を把握するためのインターネット調査を実施し、今後の定山溪の振興に役立てていきます。

○新たな観光魅力づくり、観光資源の開発【観光振興担当】

観光客の札幌市での滞在をより充実させることを目的に、各関係団体とも連携のうえ、札幌の新たな観光魅力づくり、観光資源の開発を行っています。

(1) さっぽろスイーツ

平成17年度に設立された「スイーツ王国さっぽろ推進協議会」を中心に、北海道の優れた食材を生かしたスイーツの開発や、国内外へのPR活動など様々な事業を展開しています。

(2) 札幌広域圏組合

札幌広域圏組合は、広域的な地域振興を図ることを目的に、札幌近郊8市町村から構成されている特別地方公共団体です。圏域交流や圏域振興については近郊市町村と密度の濃い連携のもと、互いにはないものを補いながら、「点」としてではなく「面」として札幌圏をPRし、札幌圏への誘客を目指しています。また、同じ圏域を有する観光圏整備事業とも連携し、共通の取り組みとして協働で進めています。

主な事業としては、主要旅行会社担当者とともに札幌近郊の観光資源を視察し旅行商品化を促進する「観光資源現地視察」の実施や、観光セミナー(ROUND-TABLE about SAPPORO TOURISM)への積極的な参加、モデルコースを紹介したブログサイトの開設やスタンプラリーの実施などの事業があります。

(3) 中核都市連携による観光振興

北海道内の中核都市(函館市・旭川市・釧路市・帯広市・北見市・札幌市)による観光

担当者会議を平成 22 年 3 月に立ち上げました。今年度は、各市市民が利用する情報サイトを活用した相互交流の仕組みづくりやボランティア制度の情報共有などを行う予定です。

(4) 観光圏整備事業

札幌市中心部などの都市としての魅力と周辺市町村に広がる大自然を観光資源とした札幌圏での 2 泊 3 日以上滞り型観光を促進するため、周辺市町村や民間事業者と連携して「さっぽろ広域観光圏」を整備しました。「さっぽろ広域観光圏」では、少ない移動時間で都会と自然の両方を満喫できることをメリットとして各種事業を展開しています。平成 22 年度は観光資源を結ぶタクシープランや連泊型ツアーなどを実施するほか、花をテーマにしたマップ制作や観光資源やモデルコースの映像化など PR ツールを充実させるなど、圏域の魅力アップを図っていきます。

観光圏：観光圏とは、観光庁が観光圏整備法に基づいて実施している事業です。観光圏に認定されることによって、宿泊、観光資源、交通移動、案内・情報提供などのレベルアップを図る地域の取り組みに対する事業費補助、ホテル・旅館による旅行業者代理業の特例措置などのメリットがあります。

○各種まつりの企画実施【事業係】

(1) さっぽろライラックまつり

ライラックの開花時期に大通公園で開催。昭和 34 年に第 1 回が開かれ平成 22 年で 52 回を迎えました。

(2) さっぽろ夏まつり

昭和 29 年に夏の観光名物の新規開拓を目指し誕生。平成 22 年で 57 回を迎えました。イベントの中心となっているのがさっぽろ大通ビアガーデンと北海盆踊りで、都市公園で 4 大ビールメーカーが一同にビアガーデンを開催するのは全国的にも珍しいものです。

(3) さっぽろオータムフェスト（4 トピックス（p13）参照）

平成 20 年度から、札幌の新たな秋のイベントとして開催。今年で 3 回目の開催となります。「北海道・札幌の食」をメインテーマとして、道内各地の旬の食材、ご当地グルメやラーメン、道産のお酒などを提供します。

(4) さっぽろ菊まつり

昭和 38 年に菊作り愛好者が増える中、小規模な同好会活動が一本化され、全市的なスケールのイベントとして誕生。平成 22 年で 48 回を迎えます。さっぽろ地下街のオーロラタウンとポールタウン、地下鉄大通駅コンコースを会場とし、毎年数百点の菊が展示されています。

(5) さっぽろ雪まつり

昭和 25 年に始まったこのまつりは、札幌を代表する世界的なイベントで、平成 23 年で 62 回を迎えます。約 250 基の雪氷像が 7 日間にわたり市民や観光客を楽しませます。

○各種まつりの連絡調整【事業係】

(1) YOSAKOIソーラン祭り

平成 4 年に始まったこの祭りも平成 22 年で 19 回を迎え、約 220 万人の来場者が訪れる札幌の初夏を彩る一大イベントに成長しました。

(2) さっぽろホワイトイルミネーション

昭和 56 年に秋の観光シーズンとさっぽろ雪まつりをつなぐイベントとして誕生。平成 22 年で 30 回を迎えます。会場は大通公園、駅前通り及び南一条通りで、総数 45 万

個もの電球が飾られ北の街の夜を幻想的に彩ります。

(3) ミュンヘンクリスマス市 in Sapporo

平成 14 年にミュンヘン市との姉妹提携 30 周年を記念し開催されました。会場は大通西 2 丁目で、ドイツのクリスマス市にちなんだ物販が行われ、札幌とミュンヘンの国際的な交流の場として市民に親しまれています。

○「札幌コンベンションセンター」の運営管理【庶務係】

国際会議や各種学会等の大規模な会議を、需要に応じて柔軟に対応できる大型コンベンション施設を設置しています。

〔札幌コンベンションセンター〕

所在地	白石区東札幌 6 条 1 丁目
電話番号	(011) 817-1010
開設年月	平成 15 年 6 月
構造／延床面積	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下 1 階地上 3 階
開館時間	午前 9 時から午後 10 時まで（休館日 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日）
管理運営	SORA-SCC 共同事業体（指定管理者）
主要施設	大ホール（シアター形式 2,500 人収容）、特別会議室（シアター形式 700 人収容） 中ホール（シアター形式 600 人収容）、小ホール（固定席 193 人収容） 会議室（15 室）、野外展示場、駐車場（475 台収容）
敷地面積	41,018.51 m ²
(URL)	http://www.sora-scc.jp/

○札幌国際ユースホステルの運営管理【庶務係】

来札幌観光客に低額な料金で、安全・快適な宿泊を提供する施設として札幌国際ユースホステルを設置しています。

〔札幌国際ユースホステル〕

所在地	豊平区豊平 6 条 6 丁目 5 番 35 号
電話番号	(011) 825-3120
開設年月	平成 12 年 4 月
構造／延床面積	鉄筋コンクリート造 地下 1 階付 4 階建／1,967.64 m ²
定員／利用期間	120 人／通年
管理運営	(財)北海道ユースホステル協会（指定管理者）
宿泊料金等	宿泊 3,800 円（中学生以下 3,300 円、4 歳未満無料）（冷暖房、シーツ料、税込）食事（朝食 630 円）
敷地面積	918.93 m ²
(URL)	http://www.youthhostel.or.jp/kokusai/

2 平成 22 年度観光文化局観光コンベンション部の機構・職員数

局長	部長	課長	係長	係員
観光文化局長	観光コンベンション部長	観光企画課長	庶務係長	3名
			計画担当係長	2名
			観光資源担当係長	1名
		観光振興担当課長	観光振興担当係長	3名
			観光誘致・受入担当係長	3名
			シティPR担当係長 (総務局東京事務所シティセールス担当係長兼務)	
		観光イベント担当課長	事業係長	4名
		定山溪地区担当課長 (南区定山溪出張所長兼務)	定山溪地区担当係長 (南区定山溪出張所次長兼務)	
		調整担当部長		
		部長職 (札幌振興公社派遣)		
	課長職 (札幌観光協会派遣)			
1名	3名	5名	8名	16名
合計職員数 33名				

3 平成 22 年度予算の概要

《平成 22 年度観光コンベンション部 当初予算の概要》

予算総額 688,042 千円（対前年度比 24.3%の増）

観光振興費

・観光案内所運営費	54,012 千円	観光案内所の運営管理
・観光施設運営管理費	31,441 千円	定山溪観光施設の維持管理・指定管理施設修繕
・観光情報ポータルサイト運営費	11,389 千円	観光情報サイト「ようこそさっぽろ」運営管理
・観光企画宣伝費	40,359 千円	事務経費

観光行事助成費

・観光行事等助成費	129,600 千円	各種まつり・札幌観光協会への補助
-----------	------------	------------------

集客交流促進費

・ターゲット別国内観光プロモーション事業費	11,300 千円	首都圏等でのターゲット(一般客・旅行会社)別の観光 PR
・国際観光促進事業費	33,100 千円	東アジア圏や新興市場に対する観光 PR
・観光都市さっぽろ推進事業	45,923 千円	市民や観光事業者と連携した観光 PR
・さっぽろ広域観光圏推進事業	15,420 千円	広域観光圏を活用した PR 手法の調査
・観光活性化基礎調査費	4,600 千円	観光客満足度調査・観光産業経済効果調査
・観光マップ制作補助金	5,000 千円	札幌の観光マップ作成への補助

都市魅力向上費

・雪まつり大通会場雪像制作費	52,557 千円	大通会場雪像制作等
・雪まつり魅力アップ事業費	104,400 千円	つどーむ会場管理運営・イベントの充実
・大通公園スケーティングスクエア事業費	12,500 千円	大通公園にスケートリンク開設
・ホタムフェスト事業費	30,000 千円	ホタムフェストの開催及びイベントの充実
・ライラックまつり魅力アップ事業費	2,500 千円	ライラックまつりにおけるイベントの充実
・藻岩山魅力アップ事業費	28,700 千円	魅力アップ構想に基づくソフト事業
・定山溪観光客誘致関連事業費	6,000 千円	来客誘致活動補助・ブランド力強化事業
・平岡公園梅林ライトアップ事業	5,800 千円	梅林の夜間ライトアップ

コンベンション推進費

・コンベンションビューロー運営費補助金	45,041 千円	コンベンション誘致活動展開及び主催者招へい
・コンベンション誘致促進補助金	10,000 千円	コンベンション誘致促進のための開催費補助
・新世代コンベンション推進事業費	8,400 千円	企業間の国際会議等誘致補助

4 トピックス

○市民一体となった、まち全体の「おもてなし」の取り組み

本年5月末から6月上旬にかけて、「日本APEC北海道札幌貿易担当大臣会合及び高級実務者会合並びに関連会合」が札幌市を舞台に開催され、我が国を含め、21の国・地域から約1,000人の参加者が来札しました。札幌おもてなし委員会では、この「APEC貿易担当大臣会合及び関連会合」を札幌ファンを増やす絶好の機会ととらえ、参加者を温かく歓迎するおもてなしプロジェクトに取り組みました。

一つ目が、来札する参加者一人ひとりに、市民一人ひとりから歓迎の意を伝えるために、宿泊ホテルのお部屋に、市民手作りの「折り紙」を入れておこうというもの。同委員会の構成メンバーのほか、市内の児童会館や社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、そして一般市民から、なんと目標を大きく超える14,300もの作品が寄せられました。参加者からは、「毎日、異なる折り紙作品が差し入れられ、大変驚くとともに、おもてなしの気持ちを感じた」「札幌独自のおもてなしに感動した」等の声が寄せられています。

二つ目の取り組みが、「外国人向け飲食店マップ」の制作です。ホテルのコンシェルジュや観光案内所の職員の協力で、英語メニューや写真付きメニューをおいているレストランを中心に、コンビニやファーストフードレストランも含め、外国人が気持ち良く食事をとれる店を掲載。また、イスラムの方やベジタリアンの方にも対応できるレストランの情報も掲載しました。会期中、マップ片手に、ホテル近辺の飲食店に出かける参加者の姿が数多くみられたほか、在京/在札のチリ、フィリピン、米国大使/総領事より、お礼状が届きました。市民による温かく、札幌らしい「おもてなし」は、APEC参加者の心に届いたことでしょう。

また、観光客の満足度を向上させ、札幌のイメージアップとタクシー観光の利用促進を目的に、「(仮称)北海道観光おもてなしタクシー乗務員認定制度」の札幌版の事業に取り組んでいます。これは、接客マナーと観光知識に優れたタクシー乗務員を「観光おもてなしタクシー」の資格を与え認定するもので、タクシーのおもてなしレベルアップを図り、ひいては札幌のまち全体の「おもてなし」のレベルアップを目指す取り組みです。平成23年4月から、「観光おもてなしタクシー」の第一号が札幌の街を走るようになります。

今後も、大勢の来札者が見込まれる大規模イベントや会議の際には、札幌流のおもてなしを行い、まち全体のおもてなしレベルアップに努めるとともに、まち全体で国内外の観光客を温かくお迎えする取り組みを行っていきます。



市民手作りの折り紙と市長から参加者へ向けたメッセージカード

○海外プロモーション活動について

札幌市では、国や道などと連携し、海外からの観光客を誘致するためのさまざまな事業を行っており、22年度は東アジア及び東南アジアを中心とした9カ国・地域を対象市場としています。

特に、本年7月に個人ビザの発給要件が緩和され、今後ますます来札観光客が期待される中国については、北京で富裕層を対象にしたラグジュアリーツアー（高級感のある旅行）のプロモーションを行いました。ホテルのスイートルームや高級レストラン、ゴルフやスキー、乗馬体験などの情報を、現地の旅行エージェントに提供し、「特別感のある」魅力的な商品造成につなげてもらうことを目的に実施しています。

また、上海万博を契機としたプロモーション活動も予定しています。9月3日から5日までの3日間、日本館イベントステージにおいて「北海道の日」を主催者の一員として開催し、北海道・札幌の魅力を幅広くPRします。さらに、上海の有力企業やメディア等を対象に、札幌の食を中心とした観光セミナーを実施し、インセンティブツアーや産業観光の誘致につなげていきたいと考えています。

一方、新規市場を開拓するために、国が進めるビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）で新たに地方連携事業の対象となったインド・ロシア・マレーシアに向けたプロモーションも予定しています。

すでに相当数の入り込みがあり、これまでも誘客活動を行ってきたマレーシアについては、22年度、初めてメディア招請を行い、広く一般市民に札幌の魅力をPRすることで、旅行意欲を喚起します。近年、スキー客の入り込みが増加している極東ロシア（ハバロフスク及びユジノサハリンスク）については、スキーや冬季観光の魅力を伝える現地プロモーションを行います。また、将来的に中国と並ぶ巨大市場となり得るインドについては、旅行先としての札幌の認知度向上を目指すとともに、併せて市場調査を行い、より効果的なPR方法や、より魅力的な観光素材を追及していく予定です。

○さっぽろオータムフェスト

「さっぽろオータムフェスト」は、北海道全体の活性化に貢献することを目的として、「北海道・札幌の食」をテーマに、道内市町村や民間事業者が連携して開催する、旬の食材やご当地グルメを一堂に取り揃えた秋の一大イベントです。

2回目となる昨年は大型連休（シルバーウィーク）や好天にも恵まれ、目標来場者数の80万人を大きく上回る130万4千人もの市民・観光客が集まり、秋の大型イベントに成長しました。

会場では、北海道内各地の新・ご当地グルメ、道産小麦100%麺を使用した地域色溢れるラーメン、札幌発のスープカレーやスイーツなどを提供し、大勢の市民や観光客に、北海道・札幌の味を楽しんでいただきました。

また、北海道の酒、酒肴（おつまみ）というテーマでは、道内酒蔵のとおき日本酒、ワインの飲み比べや、道産食材を使用した酒肴の提供を行ったほか、「すすきのグルメグランプリ」では参加店が「すすきのグルメ」の技を競い、市民・観光客の目と舌を楽しませました。また、「さっぽろタパス」とのコラボレーションによる、タパス（おつまみ）を世界10カ国以上のワインとともに楽しむ催しも人気を集めました。

地元アーティストによる生演奏を聴きながら、昼のオープンカフェ、夜の特設バーを楽しむことができる空間づくりも、好評を得たところです。

道内100以上の市町村から自慢の特産品や加工品等を集めた「札幌大通ふるさと市場」は、昨年引き続き大好評で、多くの人が各地域の「食」ブランドを知って実際に味わう機会を提供することができました。

新設した4丁目会場では、札幌市内・近郊の飲食店や農産物等のPRを目的として、すすきの・円山のおすすめグルメ店を紹介するコンシェルジュ機能、日替わりで人気シェフたちのこだわりの味を提供する「さっぽろシェフズキッチン」、近郊農家の採れたて農産物、陶器、花などの販売を、初めて行いました。特に手ごろな価格で人気店の料理を食べることができるシェフズキッチンは人気集中し、売り切れ続出となりました。

また、地元飲食店との連携の試みとして、会場以外でもイベント展開を行い、円山エリアのレストラン10店がオータムフェスト特別限定の「円山オータムランチ」を提供したほか、札幌市内ホテルや大通の百貨店で、道産食材の持ち味を生かしたメニューを提供するといった、コラボレーション企画を実施しました。また、北海道ファミリーマートとの連携により、企画商品の期間限定販売も行いました。

さらに、イベント終了後に、さっぽろタパス実行委員会の常設バー「Barcom Sapporo」内に、旬の食材・加工品の販売や、素材を生かした調理品を提供する「さっぽろオータムフェストサテライトスペース」をオープンしました。これにより、オータムフェストを一年中味わうことが可能になり、道産食材ブランドのPRを継続的に実施しています。

○（仮称）札幌市観光振興プランの策定

札幌市では、観光を通じた豊かなまちづくりを進めるため「（仮称）札幌市観光振興プラン」を策定する予定です。これは、今後4～5年間の中で市民、企業、行政が連携して取り組むアクションプランです。

現在、23年度中の策定を目指して、札幌がおかれている状況の分析や、今後目指すべき方向性などの検討を進めています。また、7月には北海道大学観光学高等研究センターと連携して、「観光創造研究会」を発足し、札幌が持つ観光資源を様々な視点から見つめなおす取り組みを開始しました。

札幌は、北海道の食と文化が集中し、また、宿泊施設や交通網が充実した便利な都会でありながらも豊かな自然と共存しているなど、多種多様な魅力をたくさん持っています。これらを最大限に活用することで、集客交流のより一層の発展を目指します。